

# ごあいさつ



上島町長  
上村 俊之

上島町の皆様、あけましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え、新たなスタートに備えて、一家団欒楽しく癒される時間を共有されたのではないかと拝察いたします。

家族が揃い何をするでもなく、コタツに足を入れゆつくりとした時を過ごす、これは今の私にとって何よりの贅沢な時間と言えます。

昨年を顧みますと、台風等による災害や悲しい出来事もありましたが、景気も回復の傾向を示し、各企業からも「創設以来の高収益」という報が数多く入ってまいりました。11月には紀宮様のご結婚もあり、久しぶりの国を挙げてのお祝いとして、新年に向けた明るい兆しとなる年の結びとなりました。嫁ぐ朝、皇后様は、紀宮様をしっかりと抱きしめ、「大丈夫よ」という短い言葉で気持ちを伝えられたようですが、国民全てが母の持つ大きな愛と共に行動すれば、世の中の様々な問題についても解決の方向に進むのではないかと思っております。

また、昨年は上島町行政運営において「まちづくり懇談会」の開催等、「よく見るよく聞く よく話す」を行動指針として取り組んでまいりましたが、今後とも機会を捉え「町民の声が届く町政」を具体的に実行し、町民の目線に立った政策を進めていきたいと考えています。

さて、新年においては上島町民が熱望する「上島架橋の早期実現」も6億5千万円の工事費として補助事業採択されたことにより、いよいよ本格的な生名橋着工の運びとなりました。これまで導いていた関係各方面の皆様改めて感謝を申し上げますと共に、次の「岩城橋」着工に向けて町民の皆様のご協力を賜りたいと願っております。

上島町にとりましては本年以降「上島架橋」「産業振興」「立石港周辺整備」「漁港整備」「消防庁舎建設」「ごみ焼却場建設」「海光園建設」「少子高齢化対策」「教育環境整備」「へき地医療対策」「高度情報化対策」「防災無線デジタル化」「公営住宅建設」など様々なプロジェクトが控えており、政府が平成17年度及び18年度の2年間を、新たな成長の基盤を確立する為の「重点強化期間」と位置づけているように、上島町にとってもこの2年間は町の将来を決定する最も重要な時期になります。

三位一体改革により、受益と負担の関係を明確化し、地方が自らの支出を自らの権限、責任、財源でまかなう割合が増加する方向に進むようになるのと同時に、行政の企画能力により今以上の予算が獲得できる環境が整いつつあります。補助金や交付金についても、今後は地方のやりたいことがやれるようになる、逆に言えばこれくらいに各地方の実情に合った事業を計画するかといった知恵が試されています。

行政職員は今「上島町」発展の為、町民の幸せの為に切磋琢磨し、全速で全力を尽くさなければなりません。

もちろん、現在において環境の変化に対応できる職員も育ちつつあり、自ら努力を続けている職員もおります。今後はその職員を中核とした組織編成を行うことが「世界に誇れるふるさと」づくりにとって重要な行政運営手段であると考えております。政府は平成18年度においても、「地域に

において必要な行政課題に対しては適切に財源措置を行い、地方団体の安定的な財政運営に必要な地方交付税、地方税などの一般財源の総額を確保する」という方針を示しておりますが、歳出削減を引き続き行う為、交付税の算定方法の簡素化、透明化に取り組みするという名目で実質的な地方交付税の削減を図ろうとしています。

愛媛県も県職員給与カットや大規模事業の凍結・延期などを盛り込んだ財政構造改革基本方針を発表しており、上島町においても大幅な歳入不足が見込まれる為、特別職の給与カットや各種手当・団体助成金等の見直し、あるいは民間への業務委託や市場化テストの導入等、徹底した歳出削減策に取り組まなければなりません。

私は町民の皆様から行政運営を委ねられた者として「先憂後楽」（指導者たる者は人々が心配する前から、物事を心配し、人々が楽しむのを見届けた後に、自身が楽しむようにという意の中国の格言であり、政治の運営に携わる者は、常に人々のことを考えて、行動するようにという戒めの言葉）を指針とし、職員共々公僕たる者の心構えを、新年において改めて再認識し仕事に邁進する所存です。

先人は今よりお金や物が無い時代に、寄進や労力の提供という行為で神社仏閣や集会所などを建設し、現代の私達に大きな遺産として残してくれています。また、徳川家康の「戦いは強いものが勝つ 辛抱の強い者が」という言葉があるように、私達の時代に現状を真剣に捉えそれに対応することが肝要であり、次の世代に明るく豊かな上島町を残す為にも、お互いが譲り合い辛抱をすることが、今の私達に最も求められていることではないでしょうか。

「大丈夫よ」という人を暖かく包み込む「愛」と、相手を思いやる人の「和」を合言葉に、新年も上島町民全員で元気を出して頑張りましょう。

# 平成18年 新年の



上島町議会議長  
田窪 忍

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

上島町になって二度目の春を迎えました。新しい年が上島町に発展をもたらす素晴らしい年になることを心から願っております。

昨年は、長らく低迷していた経済活動に明るい兆しが見え、景気が多少なりとも上向きになりつつある一年でした。

本町においても、岩城地区を中心とした基幹産業の一つである造船業が好調に推移していることは喜ばしいことでもあります。

さて、ここ数年、国が地方分権と三位一体改革を強力に進めていることはすでに皆様ご承知のとおりです。

地方分権とは、国が持っていた権限や財源を県や市町村に移して、地域のことは地域で決められるようにすること、また、三位一体改革では、地方の収入となる税を国が地方に移譲する一方、補助金や地方交付税の交付額は少なくなりますが、地方の財源不足を解消することを目指しております。

これまでの地方行政は、国に制度面や財政面でコントロールされて自由度の低いものでした。

そのため、その地域に合った特色ある行政や効率的な行政を行うことが難しく、画一的な地域づくりや東京一極集中が進んできました。

このような状況を改めるために、国と地方の事務の見直し、各種規制等の廃止や緩和、国の関与の見直し、財源の見直しなどが行われています。

このような流れの中で、町は自らが物事を決定し、その結果についても自ら責任を持つことが求められています。

そのため、今後も住民の意向に沿った行政を推進することはもちろん、財政面では厳しい状況が今後も続くことが想定されますので、住民の皆様にも「協働」の精神を持っていただき、明るい魅力ある上島町づくりと共に取り組まなければいけないと考えております。

合併後一年あまり、上島町の課題はまだまだ山積しておりますが、本年は、新町としての土台をしっかり築きあげる重要な年であると思えます。

本年のソフト面の主な施策としては、今後10年間の上島町の基本計画が策定され、町民の皆様に将来のビジョンが示される予定です。

またハード面では、佐島と生名を結ぶ待望の生名橋の起工式が近くに予定されており、二隻目の救急艇の完成もまもなくです。

さらに、近い将来の計画としては、生名橋の完成後を見据えた生名立石港駐車場及び港湾の整備、消防庁舎の建設、海光園の改築等も予定されております。

町議会としましては、住民の付託に応え民主政治を支える重要な機関であることを再認識し、町民の皆様の声を大切にし、町長とも意思の疎通を充分図りながら、より

豊かで住みやすい町づくりのために努力してまいりたいと考えております。町民の皆様には、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年も上島町にとって平穏な一年でありますよう祈念するとともに、町民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

## 海と緑と太陽と・ 笑顔でつながる上島町